

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害公衆衛生実習を開催しました (2021/10/2-3)

テーマ：スフィア（Sphere）

場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2021年10月2日（土）、3日（日）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害公衆衛生実習を実施しました。宮城県内外の医療従事者（医師、歯科医師、看護師、薬剤師）、行政職員、大学生ら2日間で計25名が受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

スフィアとは、人道支援の質と説明責任の向上を目的とし、その原理は以下2つの基本理念に基づいています：①災害や紛争の影響を受けた人びとには、尊厳ある生活を営む権利があり、従って、支援を受ける権利がある、②災害や紛争による苦痛を軽減するために、実行可能なあらゆる手段が尽くされなくてはならない。技術的項目の、避難所の1人あたりの居住スペースは最低3.5m²、共用トイレは20人に最低1つなど、多くの指標が内閣府「避難所運営ガイドライン」や他の自治体避難所運営マニュアルにスフィア基準として用いられています。受講生は西日本豪雨災害の実例を題材に、避難所で求められる解決すべき最優先課題はなにか、課題解決のためにどのようなスフィア基準を用い、どのような機関と連携し実施しなければならないか、など、核心的・具体的な課題について熱心にグループ討議、発表を行いました。

通常、スフィア研修は丸2日かけ対面によって実施されますが、コロナ禍の現状を鑑み、本プログラムにおいては講義部分をweb研修、実習部分のみを対面研修とする、特別構成となりました。



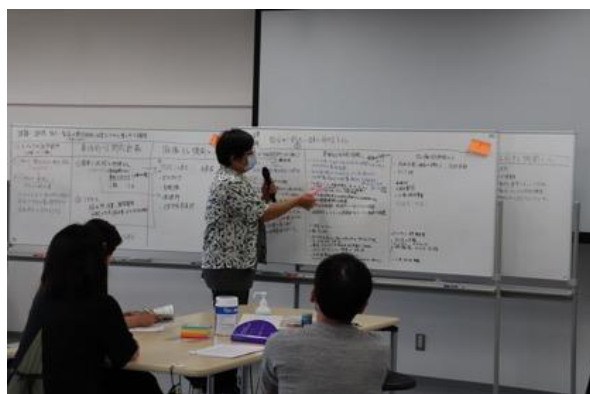
講師の原田奈穂子宮崎大学医学部教授



感染対策のため受講生は教室に散らばって聴講



西日本豪雨をモデルにスフィアに沿った支援のあり方をグループ討議
(近接時はフェイスシールドをして演習)



グループ討議内容を模擬会議で説明する
受講生

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）